

西沢式「本物の5S」実践講座

西沢技術士事務所

西沢和夫

第11回

「本物の5S」によるムダとりで儲かる生産現場づくりを実現する

ケーススタディ

伊藤工場長は、生産現場にムダが発生していることが気になっている。毎日の生産現場巡回において、歩くムダ、モノ探しのムダ、生産ライン中断のムダなど、あちこちで目に付くようになった。さらに、最近では納期遅れが多発し、営業が不満を持っているのも事実だ。このようなムダを何とかして減らせないものかと考えた。ある本で読んだムダの把握法に、歩く歩数を把握するとよい、一步は時間に換算して0.7秒であるという方法を使用することを思い出した。早速、吉田係長に組立ラインの作業員数名に万歩計を付け1日の歩数を把握するよう命じた。さらに、職場を離脱する

回数を記録することも命じた。歩くムダとは、職場を離脱することを意味しているからだ。その結果は驚くべき数値であった。一日の平均歩数は約10,000歩、時間にして7,000秒になる。一日7時間は、25,200秒に換算されるので、一日の30%近くが歩くだけに使われていることになる。別の作業員の離脱回数は、一日平均約20回、一回10分に換算すると合計200分(3時間20分)になる。今回の現状調査の結果、特に非正規社員や新人社員にこのような傾向があることが分かった。以前、「本物の5S」を導入することで、生産現場のムダとりができると聞いたことがあるが、具体的に何をしたらよいのか悩むこの頃である。

ケースの問題点

このケースでは次の問題点が挙げられる。

- ムダの実態を把握したがどのようにして削減したたらよいかが理解されていない
- 「本物の5S」の導入によってムダとることができることを理解していない

生産現場のムダとは何か

今日の実験現場は、非正規社員や新人社員など、経験と知識が不足する作業員が増加している。これらの作業員に欠けているのは、どの場所にあるのか、何を準備したらよいのか、など作業開始の準備事項なのである。にもかかわらず、生産

